

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300376		
法人名	特定非営利活動法人 快		
事業所名	グループホーム 快栗駒		
所在地	宮城県栗原市栗駒稲屋敷後原前13		
自己評価作成日	平成31年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改修した一軒家であり小規模ではあるが、家庭的な雰囲気大切にしている。ウッドデッキの修繕・庭の整備を進め過ごしやすくなっている。毎月季節の行事を行い楽しんでいただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成31年	2月	27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、若柳・金成インターから車で15分の住宅地の一角で、近くには栗駒南小学校がある。玄関には「千客万来」の飾りがある。近くには空き家が多いが、近所の人とは、職員の出勤時に挨拶をしたり、スーパーで声を掛けられたりとの交流がある。町内会に加入し、輪番で集会所清掃や早朝のゴミ拾いに参加している。常駐する業務員がおりホーム敷地内をきれいにし、広々とした庭である。暖かい日にはウッドデッキでお茶を楽しむ事がある。職員の大幅な入替えがあったが、今後、職員教育と入居者が増えていくようにと体制作りに取り組むとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 快栗駒)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業所としての理念を掲げている。	理念は見直しされていない。職員の大幅な入れ替えがあり、新しい職員に理念を掲げる意味を説明しているに留まっている。介護に関する5つの目標を確認しながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、日々のあいさつを心がけるなど日常的に交流している。	小学校の運動会を見に数人が行った。ホームの行事「流しそうめん」では、近所の人に声掛けをした。敬老会の案内が来が「自分は未だ老人ではない」と参加はしなかった。時折、近所から野菜の差入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム行事などに招待したり、ホーム便りを通して情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	目標達成計画として挙げていたが会議を開催しなかった。	職員の入れ替えでホームの体制作りに追われ、会議の開催はなかった。	県のガイドラインで求められているので行政等に相談しながら、早急な会議の開催に向けた取り組みをお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村福祉課の担当者と訪問や電話で連絡を密にとり、相談にのって載っている。	生活保護の入居者が入院した時、市町村に相談をした。11月に実地指導があり、資料の作成や人員基準、法人内の兼務についても相談をした。市の研修会の案内はあるが、参加が出来ていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解しているとは言えず、その都度話し合うようにしている。	防犯上夜間のみ玄関に施錠している。声掛けは威圧的にならないようにしている。車イスに板状のテーブルや肘置きを付け、食事時の姿勢保持に活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員が正しく理解しているとは言えず、その都度話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料などを基に学ぶようにしており、必要のありそうな方に提示するなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居の際には本人及び家族に説明を行い、理解と納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡の際に、意見や要望を伺うようにしている。	「運動不足になるからリビングから遠い部屋に」の家族の要望に応えた。部屋から出てくるのが億劫にならないように声掛けをしている。「寒がりなのでドンブクを着せて欲しい」の声もあり対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見を話せる雰囲気を作り、相談に乗るなどしている。	職員から「口数減ったね」の意見に、入居者の興味が引き出せるように声掛けをしている。寒さ対策で大型ストーブに替えた。資格取得にはまだまだ消極的な職員もいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が定期的に職員一人ひとりと個人面談を行い、状況の把握・改善に動いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の実際と力量にそって、資料を用意したり仕事内容を変えるなど、段階的に成長できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の法人から職員が移動したり、互いに訪問の計画を立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾け、安心して生活できるよう信頼関係の構築に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学していただき、ホームの案内をするとともに、これまでの家族の苦労話に耳を傾け要望を聞くなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本院と家族が抱えているニーズや気持ちを確認しながら、最適なサービスが受けられるよう話し合うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべて行うのではなく本人が「今」できることを見極め、残存機能を活かしたお手伝いやコミュニケーションを通して、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りや生活状況を月一回書面にて送付し情報の共有に努めている。また本人の意向を伝えるなど本人と家族の絆を大切にしながら関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物を持ち込んでいただいたり、お友達や親戚の方が遊びに来やすい環境づくりに努めている。	入居者への訪問者には「次も来てくださいね」と声掛けをしている。近所の元職員の訪問が度々ある。家族と自宅を見に行く入居者もいる。ホームセンターで鉢植えの花を買ったり、ウインドーショッピングをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、交流できるよう間に入ったり、通訳するなど支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても関係性を大切にしながら、必要に応じて相談・支援に努めお手伝いさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で、会話の内容や表情から思いや意向を把握できるよう努めている。困難な場合にも表情を読み取ったり、家族からの情報やこれまでの経過をもとに本人本位に検討している。	耳の遠い方にジェスチャーで対応している。顔をしかめる方はうるさい人と席を離している。「赤色が好き」と聞き、赤い洋服を選んでもらう。「室内で履き物は履くものでない」に、厚めの靴下を履いてもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境を把握し、これまでの生活とあまり変わらない生活が送れるよう努め、サービス利用の経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子の観察や、日々のかかわりの中で、一人ひとりの過ごし方、心身状態、有する力などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や受診結果をもとに、本人がより良く暮らすための課題やケアの在り方について関係者と話し合い、ケアマネジャーが介護記録を作成している。	半年に1回見直しをしている。退院後、体重の減少、筋力低下、栄養不足のある入居者に医師の助言を入れ、食事形態の見直しを計画書に反映させた。全入居者の家族に記名・押印がなかった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別の介護記録に記入し、職員間の情報共有を図りながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を含めその時々ニーズに合わせて柔軟なサービスが提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている社会資源を把握し、本人の心身の力を発揮しながらより豊かな暮らしができるよう支援に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、通いなれたかかりつけ医やかかりつけ薬局とホームとの関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医を1ヵ月、2ヵ月毎に受診し、受診記録を作っている。認知症の薬のみ処方には職員が対応している。訪問歯科で数人治療を行い、口腔ケアの確認も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で得た情報や気づきなどを介護記録に記入し、定期受診や電話で相談し適切な受診につながるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院治療が受けられるように、定期的に面会したり、早期退院ができるように病院関係者との情報交換や相談を行い関係づくりを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取り介護はできないことを、家族や医療機関に定期的に伝えている。	入居時「看取り介護」に関する指針を説明している。経口摂取が出来なくなり、医療行為が必要となった時期に医師と相談しながら再度、家族と確認している。家族が施設入所を希望し事前に申し込んでおくこともある。看取りはしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて、マニュアルや連絡体制を状況に応じて整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下、職員全員で避難訓練を行った。地域の避難訓練に参加し協力体制を築いている。	消防署立会いで総合訓練を実施した。初参加の職員が多く、消火器の使い方、避難方法の確認をした。事後の話し合いの記録はない。スプリンクラーは設置猶予期間で設置を検討中である。	夜間想定を含め、年2回以上実施するように急いで体制を構築して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人前で恥ずかしい思いをさせないように、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に配慮している。	排泄で失敗した場合は「お部屋に行きましょうね」と誘導している。男性は苗字、女性は名前で呼んでいる。外出着は気候に合わせて、2、3点出して選んで貰う。寒暖差に合わせて、着衣の調整をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるよう働きかけに努めている。困難な方にも選択肢を出したり表情を読み取るなど心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースや希望を大切に、その人らしく過ごして頂けるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように日々努めている。お化粧や散髪なども本人の希望を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、希望を聞いたり一緒に準備や片付けができるよう努めている。季節に合わせた食事や、家庭菜園での野菜作りを行い旬のものを取り入れるようにしている。	「何が食べたい」「肉、魚どっち」と聞きながら2日分位ずつ献立を作り調理している。正月にジャガイモと片栗粉で餅の代わりに作った。入居者に魚の捌き方を教えてもらったり、はっと汁の味見をしてもらったりする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食やとろみ、塩分や脂肪分の制限など一人一人の状態に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないように、毎食後に一人一人の状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かしてできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を見ながら声掛けし、ポータブルトイレやトイレへの誘導をしている。カテーテル挿入中の入居者もトイレで排便をしている。布パンツの方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や、マッサージなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を見ながら、ひとりひとりの希望やタイミングを図り、安全に楽しんで入浴できるよう支援している。	体温、血圧測定をしてから入浴の支援をしている。洋服を脱ぐのを嫌がる入居者に、足元に湯をかける等工夫している。一番風呂が嫌な方に「いいお湯だったよ」と声掛けして誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	真っ暗にしないと眠れない、明かりや音がないと不安になるなど、一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよくお休みできるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の目的や副作用、用法や用量の理解に努め、服薬の支援、症状の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のできることを活かした作業を通してやりがいを感じていただけるようにしている。また季節ごとの行事やゲーム、工作など楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域を散歩したり、お花見やドライブなどの外出、ウッドデッキでの日光浴などしている。また、法事や墓参りなど、家族と連携しながら行っている。	近隣を散歩したり、小学校の運動会を見に行く事もある。花見には法人の車を使い、築館薬師公園や栗駒山館山公園に出掛けた。近くのホームセンターに鉢植えの花を買いに行く事もある。散髪に出掛ける入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてホームで管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達と電話や手紙、年賀状などのやり取りができるよう支援している。職員が代弁・代筆することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、温度など不快に感じないように配慮している。時間や季節に合わせてテーブルの配置や壁飾りなどの工夫をし居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	霧吹きを使ったり、天気の良い時は外気の入替えをしながら、温度、湿度を調節している。寒期は梱包用シートで窓を覆い暖かさが逃げないように工夫をしている。リビングに大きな鬼の面があり、節分には口を目がけて豆を投げ入れて楽しんだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり、仲の良い方と一緒に思い思いに過ごして頂けるように努めている。車いすや一人で動けない方もいらっしゃるため、表情を見て向きを変えてあげたり適宜移動介助している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや本人の大切にしてきた物などの持ち込みをお願いしたり、家族の写真や工作の作品を飾るなど、居心地良く過ごして頂けるような工夫をしている。	フローリングの部屋にベッド、エアコン、押入れがある。介護状態に合わせ、介護用ベッドを使っている人もいる。衣装ケース、筆筒、遺影、電気毛布等を持込んでいる。昼寝をしたり、飾り物の位置を変えたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「できること」「わかること」を活かしてできるだけ自立した生活が送れるように、安心・安全な環境づくりの工夫に努めている。		